

OMC事務局 〒565 豊中市上新田 4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-833-9227
 広報編集局 〒573 枚方市三栗 1-18-20 前田 茂夫 TEL0720-50-5781

平成8年4月(1996年) No. 364

故小倉宝蔵追悼映写会 について動員ご協力を

OMC・関西シネクラブの両クラブの会長だった小倉宝蔵氏の追悼映写会は、いよいよ4月19日(金)朝日生命ホールで開催されますが、クラブの公開映写会ですと、ある程度観客動員数が予測できますが、今回は全く予測が付きません。悪い方へ考えると、100名を割り会場もガラガラの状態さえ考えられるのです。当初はホテル・アウィナ大阪の会場を願っていたのですが、あいにく結婚シーズンで会場が空いてなくて、止むを得なく朝日生命ホールにしたのですが、会場が大きすぎたとの反省もある一方、故人にとってはゆかりのある朝日生命ホールということで満足されるのではないか、という考え方もあります。この上は、一人でも多くの方にご来場願うほかありません。OMCの会員諸氏による電話その他で、出来るだけ多くの方に呼びかけて動員のほうをよろしくお願いいたします。(OMC会長 合原一夫)

★3月例会レポート

気温の低かった今年もようやく花の便りが聞かれるようになった3月例会は30日阿倍野市民学習センターで開かれたが、会員さんの集まりは12名とまずまずだったのに対し、作品が集まらずにやゝ淋しい例会となった。作品がないと例会が成り立ちません。来月からはどしどしご持参願います。今月の出席者：有村、今井、江村、岡本、合原、杉本、関、田中、前田、森、山形、増田の12氏。司会は有村氏、書記は関氏が担当。

〈上映作品(ビデオのみ)〉

1. 「彩り」 有村 博氏 3分15秒

イベット・ジローの“ばら色の人生”をバックに、御堂筋沿いの彫像やウインド画廊の絵画が主な被写体、つまり芸術の秋がテーマです。画像の周囲の奇妙な形の額縁はかえってイメージを損なうとの声もありました。先月の'95御堂筋もそうでしたが、一つの素材で幾つもの作品を作る特技?を有村さんはお持ちのようです。こんなことが出来るのもビデオならではですね。

2. 「エジプト旅情」 杉本 憲一氏 9分35秒

スケジュールにあわせて移動する観光ツアーは忙しいもの。狙い通りの収穫はまず期待出来ません。が、民衆の表情にも忘れずにカメラを向けたのはさすがだと思いました。ピラミッドのある地平線に真っ赤な太陽が沈むシーンは大変印象的です。ただし、ナイル河の夕日は一寸長すぎました。このように珍しい情景がつぎつぎに展開していく中で、説明が一切なしというのはいかにも不親切。せめてテロップでもあればみんな納得できたと思います。

3. 「開のおばあちゃん」 合原 一夫 15分

開ひらききとは九州の有明海に臨む小さな町の名。合原さんの奥さんの故郷です。そこに84歳になるおばあちゃん(奥さんのお母さん)が今もご健在。物語は次女の娘さん(孫娘)の結婚式から始まります。朗々と詩吟を吟じるおばあちゃん。たった一つの趣味だそうです、それはそれは堂々たるもの。実は詩吟の免状をもつ師範でした。

3人の娘を立派に育て上げ、それぞれに孫もでき、のんびりと老後を過ごせばよいご身分なのに、自らが作った花や野菜を持って商いにでるおばあちゃん。理由は「お得意さんがいつも待っていてくれるから」。都会ではすでに薄れてしまった人と人との絆が、ここではまだまだ生きていることを、説得力のある映像と淡々としたナレーションで語られています。久々に見るヒューマン・ドキュメンタリー。やはり作品的に強いですね。

九州の方言は、そこ以外の地方に住む者には理解しにくい言葉です。仏壇の前のおばあちゃんのお話しはナレーションで解説されていますが、身振り手振りを交えたお得意さんとの会話はさっぱりわかりません。おばあちゃんの表情が楽しそうだけに、その内容が分かればさぞ面白いだろうなあとと思いました。

ラストは、訪ねてきた可愛い曾孫を相手に、童心に帰って遊ぶおばあちゃん。バックに流れる「しかられて」の曲の相乗効果もあって、つい胸が熱くなりました。(関 剛 記)

4月例会のお知らせ

4月例会は27日(第4土曜日)18時開会。阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)、地下鉄谷町線「阿倍野」駅7番出口すぐ。

楽しい会に育てるためにも作品持参の上、多数のお集まりをどうぞ!